

学位論文要約

保健体育科教員養成課程学生の

教師の知識の発達に関する基礎的研究

ー リフレクションに表出する「体育の授業における知識」に着目して ー

広島大学大学院教育学研究科
教育学習科学専攻 教科教育学分野
健康スポーツ教育学領域

D182825 濱本 想子

1. 論文の構成

第1章 研究の課題と方法

第1節 研究の課題

第1項 問題の所在と本論文の目的

第2項 先行研究の整理

- (1) 教師教育改革と教職の専門職性
- (2) 教師の知識
- (3) 体育科における教師の知識
- (4) 教師の学びとリフレクション
- (5) 日本の教師教育及び教師教育研究の現状

第3項 本研究の課題と論文の構成

第2節 研究の概要と方法

第1項 研究の特徴と方法

第2項 研究の対象

- (1) X大学教育学部及び保健体育科コースと教育実習校
- (2) 対象とした学生

第3節 分析の枠組み

注釈

第2章 教育実習生のリフレクションに表出する「体育の授業における知識」の実態調査

第1節 本章の目的

第2節 研究の方法

第1項 調査の対象とY中学校における教育実習の概要

第2項 調査の内容とデータの収集

第3項 分析の方法

第3節 結果

第1項 教育実習でのリフレクションに表出した「体育の授業における知識」の時期による比較

第2項 教育実習生のリフレクションに表出した「体育の授業における知識」の時期による比較

第3項 教育実習生のリフレクションに表出した「体育の授業における知識」の具体

第4節 考察

第1項 教育実習生のリフレクションに表出した「体育の授業における知識」の特徴

第2項 教育実習を通じた「体育の授業における知識」の発達とその要因

：学生Fの事例から

(1) 学生Fの特質及び教育実習への取り組みと課題

(2) 協議会でのリフレクションに表出した「体育の授業における知識」と授業実践の変容

(3) 協議会でのリフレクションに表出した「体育の授業における知識」と授業実践の変容の要因

第3項 教育実習生のリフレクションに表出した「体育の授業における知識」の発達

第5節 小括

第1項 摘要

第2項 本章の課題

第3章 学生のリフレクションに表出する「体育の授業における知識」に関する縦断的調査

(1)：模擬授業場면을対象に

第1節 本章の目的

第2節 研究の方法

第1項 調査の対象とした授業と模擬授業の概要

(1) 調査の対象とした授業の概要

(2) 模擬授業の概要

第2項 調査の内容とデータの収集

第3項 分析の方法

第3節 結果及び考察

第1項 模擬授業に対するリフレクションに表出した「体育の授業における知識」

第2項 「体育の授業における知識」に関する学生の捉えとその理由

(1) 模擬授業を通して獲得した知識とその理由

(2) 模擬授業を通して課題であった知識とその理由

第4節 小括

第4章 学生のリフレクションに表出する「体育の授業における知識」に関する縦断的調査

(2)：教育実習場면을対象に

第1節 本章の目的

第2節 研究の方法

第1項 Y中学校における教育実習の概要

第2項 調査の内容とデータの収集

第3項 分析の方法

第3節 結果及び考察

第1項 教育実習でのリフレクションに表出した「体育の授業における知識」

第2項 「体育の授業における知識」に関する学生の捉えとその理由

- (1) 教育実習を通して獲得した知識とその理由
- (2) 教育実習を通して課題であった知識とその理由

第4節 小括

第5章 模擬授業と教育実習を通じた「体育の授業における知識」の発達

第1節 本章の目的

第2節 学生の模擬授業と教育実習を通じた「体育の授業における知識」の発達とその要因

第3節 個々の学生の模擬授業と教育実習を通じた「体育の授業における知識」の発達

- (1) 学生 a
- (2) 学生 b
- (3) 学生 c
- (4) 学生 d
- (5) 学生 e
- (6) 学生 f

第4節 小括

第6章 本論文の総括

第1節 本論文のまとめと保健体育科教員養成の改善の視点

- (1) 学生のリフレクションに表出した「体育の授業における知識」の特徴とその発達
- (2) 保健体育科教員養成の改善の視点

第2節 本論文の限界と今後の課題

引用・参考文献, 謝辞

2. 研究の背景

グローバル化と知識基盤社会の到来を背景として、教師教育改革はどの国においても国家政策の中心となり、教育の質を高めるために教師の質の向上が求められている。教師教育は、1970年代以前には行動科学に基づいて教師の心構えや能力の向上を追求する「資質アプローチ」によって行われていた。しかし、1980年代以降には認知科学の台頭により、専門性基準を基盤に教師の知識の向上を追求する「知識アプローチ」へとパラダイム転換がなされている（佐藤，2015）。例えば、経済協力開発機構（OECD）の教育研究革新センター（CERI）は、2017年に『*Pedagogical Knowledge and the Changing Nature of the Teaching Profession*（教授学的知識と変わりゆく教職の性質）』（Guerrero, 2017）を刊行し、教師教育について教師の知識に着目した調査結果がまとめられている。そして、今後の教師教育研究の課題として、時代や社会の要請に伴って創造される新たな教師の知識を探求し続けることや、教員養成の改善のために、教師の知識に関する学習機会やその成果に関する調査の必要性が述べられている。しかしながら、佐藤（2015）によると、教職の専門性基準が存在せず、依然として「資質アプローチ」をとる日本の教師教育は世界から大きく遅れ、「知識アプローチ」への移行が喫緊の課題である。

教師の知識の獲得や発達には、実践とリフレクションが重要であることが明らかにされている。日本の授業研究は、実践と結び付けながら組織的に知識を生み出す機会として着目されている（Hiebert et al., 2002）。日本において、授業研究の文化は現職教育だけでなく教員養成にも根付いており、模擬授業や教育実習などの授業実践を伴う場面では、授業の計画から、実践、振り返りという一連の授業研究のスタイルがとられている場合が多い。つまり、日本の教員養成において、模擬授業や教育実習は、実践とリフレクションを繰り返して、教師の知識を獲得・発達させることのできる機会として大いに期待ができる。

では、教職の専門性基準が存在せず、「知識アプローチ」をとることができていない日本の教員養成において、どのような教師の知識が、いかに養われているのであろうか。知識研究に関して欧米に遅れをとっている日本において、知識の視点から学生の成長過程の解明や、教員養成の成果及び課題の検討は焦眉の課題であろう。

3. 研究の目的と課題

特に、保健体育科は知識研究の蓄積が浅く、事例を集積することの必要性が指摘されている（浜上，2012；山口，2010）。そこで本論文では、保健体育科教員養成課程に焦点を当て、学生が体育の授業実践を通してどのような教師の知識を獲得し、どのように発達させるのか、その過程について事例的に明らかにすることで、保健体育科教員養成の改善に向けた示唆を得ることを目的とする。また、この目的を達成するために以下の研究課題を設定した。

- (1) 保健体育科教員養成課程の学生が保持する教師の知識の実態とはどのようなものか.
- (2) 保健体育科教員養成課程における模擬授業実践と教育実習での授業実践を通して、学生はいかに教師の知識を発達させるのか.
- (3) 教師の知識の視点から見た保健体育科教員養成の成果と課題を踏まえ、今後はどのように改善されるべきか.

なお、本論文では、教師の知識として体育の授業で活用される知識に着目して「体育の授業における知識」と称し、研究を進めることとした。

4. 本論文の構成と研究の方法

本論文を6章で構成し、以下の4つの段階に基づいて調査を実施した。とりわけ、本論文では教科教育研究に長けている国立大学法人X大学教育学部（以下、X大学教育学部と明記）の保健体育科教員養成課程を対象とした。授業実践としては、「教科の指導法」で実施される体育の模擬授業実践と、教育実習での体育の授業実践に着目した。

第1に、本論文の課題を整理し、「体育の授業における知識」の特徴と発達について演繹的に分析するための枠組みを作成した。これは、第1章の内容である。関連する先行研究を整理し、学生の授業実践に対するリフレクションに表出する「体育の授業における知識」を分析の対象として、その特徴や発達について調査することとした。

分析の枠組みについて、本論文では日本において広く認知され教科別の解釈も行いやすいことから、吉崎（1987）の「授業についての教師の知識領域」（図1）を基盤として用いることとした。「授業についての教師の知識領域」では、複雑な教師の知識が3つの単一的な知識（領域1—3）とそれらが統合してなる4つの複合的な知識（領域A—D）の7つの領域に構造化されており、教師の知識を重層的に捉えることができる。さらに、吉崎（1987）は各領域について定義づけをしている。そこで、「体育の授業における知識」の分類を行いやすくするために各領域の定義を意味のまとまりごとに区切り、カテゴリーとした。加えて、体育授業の文脈により即すため、関連する先行研究（福ヶ迫ほか，2005；シーデントップ，2003；Siedentop and Tannehill, 2000）を参考に、「授業についての教師の知識領域」から作成したカテゴリーに新たなカテゴリー及び語句を追加して「体育の授業における知識カテゴリー」を作成した（表1）。この分析の枠組みに沿って、学生の授業実践に対するリフレクションに表出する「体育の授業における知識」を演繹的に分析し、領域・カテゴリーごとに割合を算出することとした。

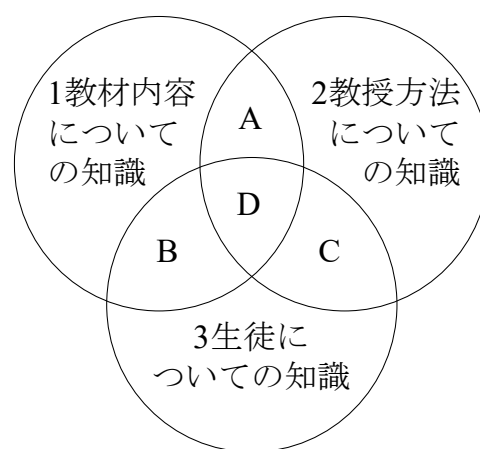


図1 授業についての教師の知識領域（吉崎，1987）

表1 体育の授業における知識カテゴリー

領域	吉崎（1987）の定義	カテゴリー		
1	その教材の中心的概念や概念間の相互関係，さらには他の教材との関係などについての知識.	教材の中心概念		
		他の教材との関係・概念間の相互関係		
2	「導入・展開・まとめ」などといった授業構造，講義法や発見学習といった学習指導法，さらには授業におけるマネジメントやしつけなどについての知識.	授業及び単元の構造		
		学習指導法		
		マネジメント	授業開始時	
			移動	
			勢いとペース・雰囲気	
			相互作用・フィードバック	
			予防的マネジメント	
			学習環境	安全管理（場所・置き場・服装・用具・教師の立ち位置）
		場・時間・用具の設定		
		しつけ		
3	一般的な発達段階における生徒の認知的・情意的，さらには個々の生徒の知的・人格的特性などについての知識.	一般的な発達段階の生徒の認知的・情意的特徴		
		個々の生徒及び学習集団の知的・人格的特性		
		個々の生徒及び学習集団における技能差の特徴		
A	ある教材を教えるときに教師が用いる説明，演示，概念の表現例証などについての知識.	説明・指示・概念の表現・発問		
		師範・示範の仕方		
B	ある教材について生徒がすでにもっている誤った考えや，学習における「つまずき」についての知識.	教材に対する生徒の感情		
		教材に対する生徒の理解度及び技能到達度		
		生徒に応じた教材の工夫		
		生徒の誤った考えや学習のつまずき		
C	様々な特性やニーズをもつ生徒を教えたり，動機づけしたりする方法についての知識.	様々な特性を持つ生徒を教える		
		動機づけ		
D	生徒の誤りを治療するための方法についての知識.	誤りやつまずきの防止	明確な指示・説明・例示	
			明確な示範・師範	
			効果的なフィードバック	
		誤りやつまずきの治療		

第2に，教員養成の中核をなす教育実習に着目し，X大学教育学部保健体育科教員養成課程学生を対象に教育実習での授業実践に対するリフレクションに表出する「体育の授業における知識」を演繹的に分析し，その実態や特徴及び発達について事例的に考察した。これは第2章の内容であり，課題（1）に対応する。具体的には，2015年度入学生（学生A—H）を対象に，2017年にX大学附属Y中学校で実施された教育実習にて調査を行った。また，第1章で作成した分析の枠組みの妥当性も検証した。

第3に，X大学教育学部保健体育科教員養成課程学生を対象に，模擬授業実践と教育実習での授業実践に対するリフレクションに表出する「体育の授業における知識」の特徴をそれぞれ明らかにし，模擬授業場面から教育実習場面にかけていかに「体育の授業におけ

る知識」が発達するか、その過程を縦断的に検討した。これは、第3章—第5章の内容であり、課題(2)に対応するものである。具体的には、2017年度入学生(学生a—f)を対象に、2つの授業実践場面を通した縦断的な調査を実施した。1つ目の授業実践場面は、2018年度に実施された、「教科の指導法」での模擬授業場面であった(2年次後期)。2つ目は、2019年度にX大学附属Y中学校で実施された教育実習場面であった(3年次後期)。

第4に、これまでの結果を踏まえ、学生の「体育の授業における知識」を発達させるために、保健体育科教員養成はどのように改善されるべきか考察した。これは、第6章の内容であり、課題(3)に対応するものである。具体的には、学生のリフレクションに表出した「体育の授業における知識」の分析結果から、保健体育科教員養成を通して獲得されやすい知識やその要因、課題などを整理した。そして、学生の「体育の授業における知識」をより発達させるための保健体育科教員養成の改善に向けた視点を検討した。本論文の構成を図2に、対象学生の属性を表2にまとめた。なお、表2の教職志望度は5が最も高い。

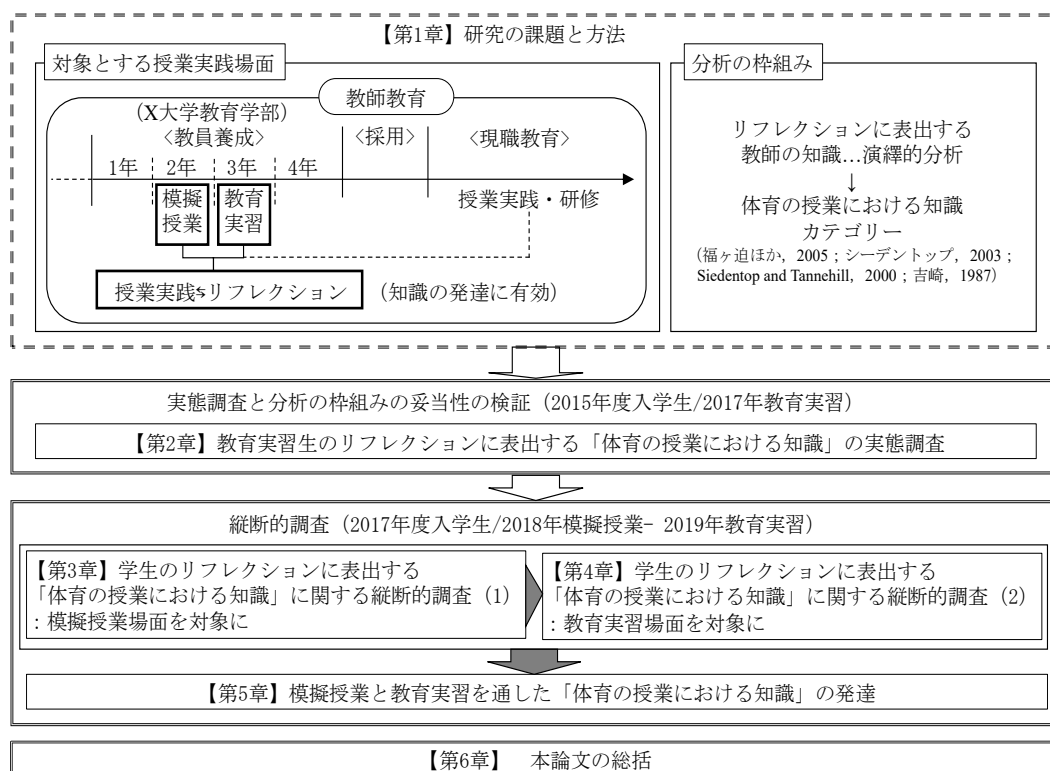


図2 本論文の構成

表2 対象学生の教職志望度と専門種目

学生	2015年度入学生								2017年度入学生					
	A	B	C	D	E	F	G	H	a	b	c	d	e	f
該当章	第2章								第3章—第5章					
教職志望度	1	3	1	1	3	3	2	1	5	2	3	5	3	5
専門種目	水泳	バスケットボール	陸上競技	ソフトテニス	剣道	野球	バレーボール	バスケットボール	ダンス	剣道	陸上競技	バスケットボール	陸上競技	野球

5. 結果

上述した3つの課題に対して、分析及び考察の結果、以下のことが明らかとなった。

(1) 学生のリフレクションに表出した「体育の授業における知識」の特徴とその発達

本論文では、吉崎（1987）の「授業についての教師の知識領域」を基盤に、体育授業の文脈により即すために関連する先行研究を参考にして「体育の授業における知識カテゴリー」を作成し、「体育の授業における知識」を分析するための分析の枠組みとして活用した。調査の結果、模擬授業場面及び教育実習場面における対象学生のデータを総合すると、全てのカテゴリーの知識の表出が確認された。表3に、第2章から第4章の調査の結果を「授業についての教師の知識領域」の領域ごとにまとめた。また、各章の調査結果の詳細は表4—6にまとめた。なお、X大学では教育実習が前・後期に分けられており、学生A—Dと学生a—cが前期教育実習に、学生E—Hと学生d—fが後期教育実習に参加した。

表3 対象学生のリフレクションに表出した「体育の授業における知識」のまとめ

領域		1	2	3	A	B	C	D
対象学生								
学生 A-H	教育実習 (前期-後期)	11.2% (9.6%-11.9%)	37.1% (48.1%-31.6%)	2.8% (3.7%-2.4%)	22.2% (14.4%-26.0%)	18.1% (13.9%-20.2%)	4.8% (8.0%-3.2%)	3.9% (2.1%-4/8%)
学生 a-f	模擬授業	11.2%	45.3%	2.4%	18.9%	10.6%	2.0%	9.7%
	教育実習 (前期-後期)	13.4% (17.2%-10.4%)	28.1% (24.2%-31.1%)	1.7% (2.3%-1.2%)	11.6% (10.2%-12.8%)	31.2% (34.4%-28.7%)	2.4% (3.9%-1.2%)	11.6% (7.8%-14.6%)

本論文の結果から、対象学生のリフレクションには「教授方法についての知識」（領域2）や関連する複合的な知識（特に、「教材内容と教授方法についての知識」（領域A））が多く表出し、その獲得は比較的容易であることが明らかとなった。一方、「生徒についての知識」（領域3）がリフレクションに表出する割合は低く、その獲得は特に模擬授業や教育実習前までの段階では難しいことが示唆された。しかし、教育実習を通してその獲得を自覚する学生は多く、教育実習で実際の生徒を目の前にすることで獲得される傾向にあった。また、領域3の知識が関連する複合的な知識（領域Bや領域C、領域D）は教育実習での授業実践や観察の経験を通して獲得が促されるという特徴があった。一方、最も複雑で教師にとって特に重要であるとされる「教材内容、教授方法、生徒についての知識」（領域D）について、課題としてリフレクションに表出することが多く、知識や経験の乏しい学生にとっては、授業実践で活かすことができるまでに発達させることが特に難しい知識であると考えられた。また、「教材内容についての知識」（領域1）は、教材研究や運動・スポーツ経験がその獲得に影響を及ぼすと考えられ、獲得を自覚する学生がいた一方、課題であったと自覚する学生も存在した。なお、模擬授業や教育実習で実践する運動領域（単元）が限られており、この知識を広く獲得することは課題であった。

表 4 学生 A—H の教育実習での授業実践に対するリフレクションに表出した「体育の授業における知識」の割合（第 2 章）

領域	カテゴリ	学生A		学生B		学生C		学生D		学生E		学生F		学生G		学生H		学生A-H				
		数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%			
1	教材内容 についての知識	教材の中心概念	0	0.0	4	5.6	1	2.9	4	9.3	4	5.3	6	6.5	5	5.6	16	13.2	40	7.1		
		他の教材との関係・概念間の 相互関係	1	2.6	3	4.2	1	2.9	4	9.3	0	0.0	4	5.3	2	2.2	8	8.7	23	4.1		
		授業及び単元の構造	学習指導法	3	7.9	7	9.9	5	14.3	4	9.3	1	1.3	7	7.6	6	6.7	6	5.0	39	6.9	
			授業開始時	1	2.6	3	4.2	1	2.9	1	2.3	5	6.7	5	5.4	9	10.1	7	5.8	32	5.7	
		マネジメント	移動	1	2.6	7	9.9	1	2.9	2	4.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.8	3	0.5	
			勢いとペース・雰囲気	2	5.3	4	5.6	2	5.7	0	0.0	1	1.3	4	4.3	4	4.3	1	0.8	21	3.7	
		2	教授方法 についての知識	相互作用・フィードバック	1	2.6	2	2.8	0	0.0	1	2.3	16	37.2	2	2.7	31	33.7	0	0.0	28	23.1
				予防的マネジメント	0	0.0	5	7.0	1	2.9	1	2.3	2	2.7	4	4.3	8	9.0	1	0.8	22	3.9
				安全管理（場所・置き 場・服装・用具・教師の 立ち位置）	5	13.2	4	5.6	2	5.7	0	0.0	3	4.0	3	4.0	2	2.2	5	5.6	28	5.0
				学習環境	2	5.3	1	1.4	3	8.6	5	11.6	1	1.3	1	1.3	1	1.1	3	3.4	17	3.0
の設定	4			10.5	5	7.0	1	2.9	2	4.7	2	4.7	5	6.7	3	3.3	3	3.4	23	4.1		
しつけ	0			0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	2.2	0	0.0	2	0.4		
一般的な発達段階の生徒の認知的 ・情意的特徴	0			0.0	0	0.0	1	2.9	2	5.7	0	0.0	2	2.7	3	4.0	2	2.2	2	1.7		
個々の生徒及び学習集団の知的 ・人格的特性	0			0.0	4	5.6	5	7.0	1	2.9	0	0.0	2	2.7	3	4.0	0	0.0	2	1.7		
個々の生徒及び学習集団における 技能差の特徴	0			0.0	1	1.4	1	2.9	1	2.9	0	0.0	1	1.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0		
3	教材内容 と教授方 法について の知識			説明・指示・概念の表現・発問	6	15.8	2	2.8	4	11.4	8	18.6	20	26.7	24	26.1	12	13.5	27	22.3	103	18.3
		師範・示範の仕方	3	7.9	0	0.0	2	5.7	2	4.7	10	23.3	4	5.3	27	29.3	7	5.8	34	28.1		
		教材に対する生徒の感情	教材に対する生徒の理解度及び 技能到達度	1	2.6	1	1.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	2.7	2	2.7	5	5.4	11	2.0	
			生徒に応じた教材の工夫	3	7.9	7	9.9	2	5.7	5	11.6	6	14.0	11	14.7	7	7.6	18	14.9	64	11.3	
		生徒の眠った考えや学習の つまずき	様々な特性を持つ生徒を教える	2	5.3	6	8.5	4	11.4	2	4.7	0	0.0	0	0.0	3	3.3	6	6.7	19	3.4	
			動機づけ	1	2.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	4.7	0	0.0	2	2.2	3	3.4	8	1.4	
		4	教材内容、 教授方法、 生徒に ついての 知識	明らかな指示・説明・列示	0	0.0	1	1.4	0	0.0	0	0.0	1	1.3	3	3.3	3	3.4	3	3.4	9	1.6
				明らかな示範・師範	0	0.0	1	1.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.2
				効果的なフィードバック	0	0.0	0	0.0	1	2.9	1	2.3	4	5.3	5	6.7	3	3.3	7	7.9	10	1.8
				眠りやつまずきの治療	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.1	2	0.4
眠りやつまずきの治療	0			0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0		
合計	38			100.0	71	100.0	35	100.0	43	100.0	43	100.0	75	100.0	92	100.0	89	100.0	121	100.0	564	100.0

表 5 学生 a-f の模擬授業実践に対するリフレクションに表出した「体育の授業における知識」の割合（第 3 章）

領域	学生 a			学生 b			学生 c			学生 d			学生 e			学生 f			学生 a-f										
	数	%	計	数	%	計	数	%	計	数	%	計	数	%	計	数	%	計	数	%	計								
1 教材内容 についての 知識	6	5.8	16	4	3.9	8	1	0.8	12	9.9	9	4.8	2	1.8	11	9.7	9	7.1	16	12.7	31	4.1	84	11.2					
	10	9.6		4	3.9		11	9.1		12	9.9	12	6.5	9	8.0	7	5.6				53	7.0							
	3	2.9		4	3.9		4	3.3				3	1.6	3	2.7							22	2.9						
	1	1.0		3	2.9		1	0.8				16	8.6	5	4.4							26	3.5						
	0	0.0		0	0.0		3	2.5				1	0.5	0	0.0							3	2.4						
	2	1.9		3	2.9		4	3.3				1	0.5	1	0.9							8	6.3						
	1	1.0		0	0.0		4	3.3				1	0.5	1	0.9							8	1.1						
	4	3.8	39	5	4.9	39	1	0.8	54	44.6	9	4.8	9	4.8	4	3.5	57	50.4	3	2.4	60	47.6	26	3.5	341	45.3			
	7	6.7		5	4.9		4	3.3				9	4.8	9	8.0							42	5.6						
	8	7.7		9	8.7		14	11.6				14	7.5	13	11.5							8	6.3						
2 教授方法 についての 知識	8	7.7		5	4.9		5	4.1			15	8.1	6	5.3							12	9.5							
	8	7.7		5	4.9		14	11.6			22	11.8	13	11.5							10	7.9							
	5	4.8		5	4.9		14	11.6			22	11.8	13	11.5							10	7.9							
	5	4.8		0	0.0		0	0.0			1	0.5	2	1.8								2	1.6						
	0	0.0		0	0.0		0	0.0			1	0.5	1	0.5								1	0.8						
	5	4.8		1	1.0		1	0.8			1	0.5	0	0.0								1	0.8						
	1	1.0	6	0	0.0	1	1.0	0.8	2	1.7	5	2.7	6	3.2	0	0.0	2	1.8	0	0.0	1	0.8	0	0.0	7	0.9	18	2.4	
	0	0.0		0	0.0		0	0.0			0	0.0	0	0.0								0	0.0						
	3 教材内容 と教授方 法について の知識	16	15.4	20	15	14.6	19	24	19.8	30	24.8	22	11.8	22	11.8	27	14.5	14	12.4	22	19.5	21	16.7	112	14.9	142	18.9		
		4	3.8		4	3.9		6	5.0			5	2.7	5	2.7	8	7.1	8	7.1	3	2.4	3	2.4	30	4.0				
3		2.9		7	6.8		3	2.5			2	1.1	2	1.1	2	1.1	2	1.8	1	0.8	1	0.8	18	2.4					
5		4.8	9	4	3.9	17	6	5.0	13	10.7	10	5.4	10	5.4	5	4.4	5	4.4	3	2.4	3	2.4	33	4.4	80	10.6			
0		0.0		5	4.9		4	3.3			4	2.2	4	2.2	1	0.9	1	0.9	1	0.8	5	4.0	19	2.5					
1		1.0		1	1.0		0	0.0			6	3.2	6	3.2	1	0.9	1	0.9	1	0.8	1	0.8	10	1.3					
4		3.8	4	2	1.9	3	1	0.8	1	0.8	1	0.5	1	0.5	3	1.6	1	0.9	2	1.6	2	1.6	11	1.5	15	2.0			
0		0.0		1	1.0		0	0.0			2	1.1	2	1.1	1	0.9	1	0.9	0	0.0	0	0.0	4	0.5					
4 教材内容, 教授方法, 生徒に ついての 知識		2	1.9		7	6.8		3	2.5			5	2.7	5	2.7	4	3.5	4	3.5	7	5.6	7	5.6	28	3.7				
		2	1.9		2	1.9		3	2.5			2	1.1	2	1.1	2	1.8	2	1.8	3	2.4	3	2.4	14	1.9	73	9.7		
	2	1.9	10	3	2.9	16	2	1.7	9	7.4	2	1.1	2	1.1	15	8.1	4	3.5	10	8.8	1	0.8	14	1.9					
	4	3.8		4	3.9		1	0.8			6	3.2	6	3.2	1	0.8	0	0.0	2	1.6	2	1.6	17	2.3					
合計	104	100.0	104	100.0	103	100.0	121	100.0	121	100.0	186	100.0	186	100.0	113	100.0	113	100.0	126	100.0	126	100.0	753	100.0	753	100.0			

表 6 学生 a—f の教育実習での授業実践に対するリフレクションに表出した「体育の授業における知識」の割合（第 4 章）

領域	体育の授業における知識カテゴリー										学生 a			学生 b			学生 c			学生 d			学生 e			学生 f			学生 a—f					
	数	%	計	%	数	%	計	%	数	%	計	%	数	%	計	%	数	%	計	%	数	%	計	%	数	%	計	%	数	%	計	%		
1	教材内容 についての 知識	6	13.3	15	33.3	1	3.0	2	6.1	3	6.0	5	10.0	8	12.7	10	15.9	1	2.4	4	9.8	3	5.0	3	5.0	3	5.0	3	5.0	22	7.5	39	13.4	
	他の教材との関係・概念間の相互関係	9	20.0			1	3.0			2	4.0			2	3.2			3	7.3			0	0.0			0	0.0			17	5.8			
	授業及び単元の構造	0	0.0			6	18.2				8.0				1	1.6			1	2.4			1	1.7			1	1.7			13	4.5		
	学習指導法	3	6.7			5	15.2				4.0				1	1.6			1	2.4			4	6.7			4	6.7			16	5.5		
	授業開始時	0	0.0			0	0.0				0.0				1	1.6			1	2.4			0	0.0			0	0.0			2	0.7		
	移動	0	0.0			0	0.0				2.0				0	0.0			0	0.0			1	1.7			1	1.7			2	0.7		
	練習隊形	0	0.0			0	0.0				0.0				0	0.0			1	2.4			0	0.0			0	0.0			1	0.3		
	マネジメント	0	0.0	4	8.9	0	0.0	12	36.4			15	30.0		3	4.8	15	23.8		0	0.0	13	31.7			2	3.3	23	38.3	6	2.1	82	28.1	
	教授方法 についての 知識	0	0.0			0	0.0				4.0				2	3.2			1	2.4			2	3.3			2	3.3			8	2.7		
	予防的マネジメント	0	0.0			0	0.0				0.0				5	7.9			4	9.8			6	10.0			6	10.0			15	5.1		
安全管理（場所・置き場・服装・ 用具・教師の立ち位置）	0	0.0			0	0.0				0.0				0	0.0			0	2.4			4	6.7			4	6.7			5	1.7			
学習 環境	1	2.2			0	0.0				8.0				1	1.6			3	7.3			2	3.3			2	3.3			11	3.8			
場・時間・用具の設定	1	2.2			0	0.0				2.0				1	1.6			1	2.4			0	0.0			1	1.7			3	1.0			
しつけ	0	0.0			0	0.0				2.0				1	1.6			0	0.0			0	0.0			1	1.7			3	1.0			
2	一般的な発達段階の生徒の認知的・情意的特徴	1	2.2			0	0.0				0.0			0	0.0			0	0.0			0	0.0			0	0.0			1	0.3			
	個々の生徒及び学習集団の知的・人格的特性	0	0.0	1	2.2	0	0.0	1	3.0		2.0	1	2.0	0	0.0	0	0.0	0	2.4	1	2.4	1	1.7	1	1.7	1	1.7	1	1.7	3	1.0	5	1.7	
	個々の生徒及び学習集団における技能差の特徴	0	0.0			1	3.0				0.0				0	0.0			0	0.0			0	0.0			0	0.0			1	0.3		
	説明・指示・概念の表現・発問	2	4.4	2	4.4	2	6.1	3	9.1		12.0	8	16.0		3	4.8	5	7.9		4	9.8	7	11.7			7	11.7			24	8.2	34	11.6	
A	師範・示範の仕方	0	0.0			1	3.0			2	4.0			2	3.2			3	7.3			2	3.3			2	3.3			10	3.4			
	教材に対する生徒の感情	5	11.1			2	6.1			4	8.0			6	9.5			1	2.4			1	1.7			1	1.7			19	6.5			
B	教材に対する生徒の理解度及び技能到達度	11	24.4	19	42.2	5	15.2	10	30.3		14.0	15	30.0	9	14.3	23	36.5		6	14.6	8	19.5			9	15.0			47	16.1				
	生徒に伝えた教材の工夫	2	4.4			1	3.0			2	4.0			4	6.3			1	2.4			4	6.7			4	6.7			14	4.8			
	生徒の誤った考えや学習のつまずき	1	2.2			2	6.1			2	4.0			4	6.3			0	0.0			0	0.0			2	3.3			11	3.8			
C	様々な特性を持つ生徒を教える	0	0.0	0	0.0	1	3.0	1	3.0		2.0	4	8.0	0	0.0	1	1.6		0	0.0	1	2.4			0	0.0			2	0.7	7	2.4		
	動機づけ	0	0.0			0	0.0			3	6.0			1	1.6			1	2.4			1	2.4			0	0.0			5	1.7			
D	誤りやつ まずきの 防止	1	2.2			3	9.1			1	2.0			2	3.2			4	9.8			3	5.0			3	5.0			14	4.8			
	明確な指示・説明・例示	0	0.0	4	8.9	1	3.0	4	12.1		0.0	2	4.0	0	0.0	9	14.3		1	2.4	7	17.1			0	0.0			2	0.7	34	11.6		
	明確な示範・師範	0	0.0			0	0.0			0	0.0			0	0.0			0	0.0			2	3.3			2	3.3			9	3.1			
	効果的なフィードバック	2	4.4			0	0.0			0	0.0			3	4.8			2	4.9			2	3.3			2	3.3			9	3.1			
誤りやつまずきの治療	1	2.2			0	0.0			1	2.0			4	6.3			0	0.0			0	0.0			3	5.0			9	3.1				
合計	45	100.0	45	100.0	33	100.0	33	100.0	50	100.0	50	100.0	63	100.0	63	100.0	63	100.0	41	100.0	41	100.0	60	100.0	60	100.0	60	100.0	292	100.0	292	100.0		

次に、対象学生のリフレクションに表出した「体育の授業における知識」から、その発達について整理する。本論文の結果から、対象学生は模擬授業場面や教育実習場面での授業実践やリフレクションを蓄積することで、徐々に獲得した単一的な知識を統合させ、複合的な知識へと発達させることが明らかとなった。特に、模擬授業場面では領域1と領域2の知識の統合が促されやすいこと（領域Aへの発達）、教育実習場面では領域1と領域3の知識の統合が促されやすいこと（領域Bへの発達）、そして、教育実習場面での授業実践及び観察の経験を通して徐々に領域2と領域3の知識の統合（領域Cへの発達）や領域1—領域3の知識の統合（領域Dへの発達）が促されるといった順序性があることが推察された。さらに、対象学生の「体育の授業における知識」の発達には、自己の授業実践のみならず、他者の授業実践の観察や協議会での振り返りなど、他者とのコミュニティの中での学びが効果的であることが明らかとなった（図3）。

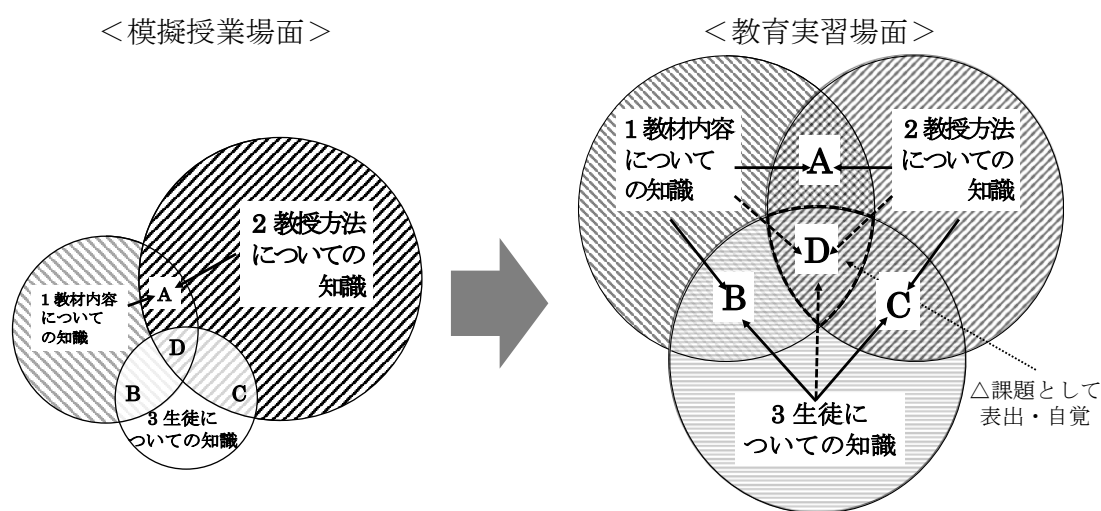


図3 模擬授業及び教育実習を通した「体育の授業における知識」の発達

(2) 保健体育科教員養成の改善の視点

本論文で明らかとなった、対象学生のリフレクションに表出した「体育の授業における知識」の特徴とその発達に関する結果から、「授業についての教師の知識領域」（吉崎，1987）の領域ごとに獲得（発達）を促進した要因と課題，それらを踏まえ，保健体育科教員養成における指導の工夫について表7に整理した。なお，表7中の獲得の難易度については，◎が最も獲得が容易であることを表現しており，○，△，▲の順で獲得が困難であることを示している。

表7 保健体育科教員養成における「体育の授業における知識」の発達を促す要因と課題及び指導の工夫

知識領域	獲得の難易度	獲得（発達）の促進要因	課題	保健体育科教員養成における指導の工夫	
単一的な知識	1 教材内容についての知識	○	・学生らの教材研究 ・これまでの運動やスポーツ経験	授業実践を経験した種目（領域）以外の教材内容の知識の獲得状況が不明瞭.	→指導法や専門科目の講義を通した教材内容の知識の広まり（深まり）と獲得状況の確認
	2 教授方法についての知識	◎	・模擬授業や教育実習での授業実践や他者の模擬授業観察	獲得がしやすいため、よりその獲得や深まりを期待できる.	→指導法の講義を通した教授方法の知識の広まり（深まり）や実践機会の充実
	3 生徒についての知識	△	・教育実習での授業実践や観察、指導教員の指導、日々の観察	実際の生徒と対面しなければ獲得しにくく、模擬授業場面では獲得しにくい.	→指導法の講義を通した生徒についての知識の指導の充実（特に、体育に関連させながら指導することが重要）
複合的な知識	A 教材内容と教授方法についての知識	◎	・模擬授業実践 ・教育実習での授業実践	獲得がしやすいため、よりその獲得や深まりを期待できる.	→指導法や専門科目の講義を通した教授方法の知識の広まり（深まり）や実践機会の充実
	B 教材内容と生徒についての知識	○	・教育実習での授業実践	この知識の獲得には、領域1の知識が充実しているか否かが作用する.	→指導法や専門科目の講義を通した教材内容や生徒についての知識に関する指導の充実 →統合を促すような指導
	C 教授方法と生徒についての知識	△	・教育実習での授業実践	この知識の獲得には、領域3の知識が充実しているか否かが作用する.	→指導法の講義を通した教授方法や生徒についての知識に関する指導の充実 →統合を促すような指導
	D 教材内容、教授方法、生徒についての知識	▲	・教育実習での授業実践	課題として気づくことはできても、実践で発揮するまでにはいかない。 また、単一的な知識の不足が影響する.	→指導法や専門科目の講義を通した単一的な知識に関する指導の充実 →統合を促すような指導 →教育実習での指導の充実

以上を踏まえ、知識の視点からみた保健体育科教員養成の改善の視点を、講義場面、模擬授業場面、教育実習場面、教職実践演習場面の4つの場面に分け提示することができた。

講義場面では、教科教育と教科専門の講義の連携を強め、単一的な知識の獲得を促すこと（知識の広まり）。模擬授業場面では、授業実践や観察、リフレクションなどを通した知識統合の機会を作り、実践的知識の獲得とそれに対してリフレクションをする力を養うこと（知識の統合・発達）。教育実習では、生徒に関する知識の獲得やより複雑な実践的知識の獲得を促すこと（知識の統合・発達、深まり）。また、指導教員に知識の観点から指導する力を養うこと。そして、教職実践演習場面では、学生の知識レベルに関するチェック機能を強化すること（知識の確認・評価・定着）が重要であると考えられた。以上の4つの

場面は、教員養成を担う大学では一般的なカリキュラムの順番となっているだろう。本論文では、カリキュラム編成というよりも教職の専門性基準がない日本において、先に示した4つの場面の特徴を活かしつつ、知識に焦点を当てた「知識アプローチ」から保健体育科教員養成を改善する視点を提唱した（図4）。

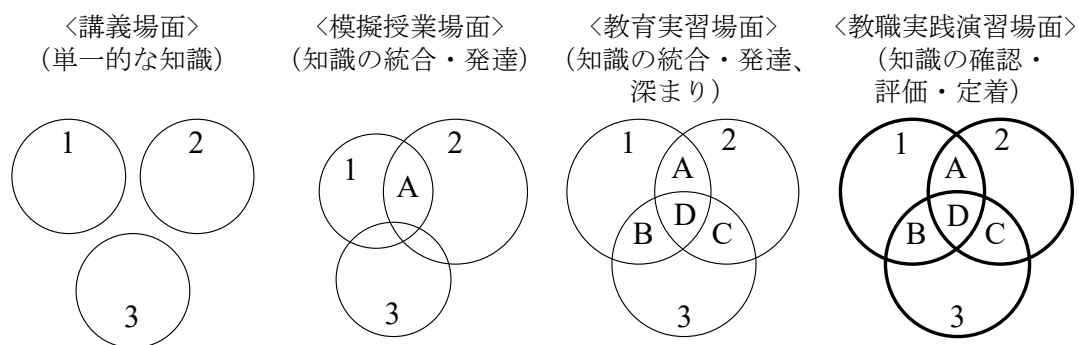


図4 知識の視点からみた保健体育科教員養成の改善の視点

6. 今後の課題

本論文では、知識という視点から X 大学教育学部の保健体育科教員養成課程学生の実態を調査し、保健体育科教員養成の改善の視点について検討することができた。特に、本論文の成果は、授業実践に対するリフレクションに表出する「体育の授業における知識」について演繹的な分析と縦断的な調査を行ったことで、学生の「体育の授業における知識」の発達について探究することができたことである。

一方、本論文では X 大学教育学部を対象としたため、事例的な調査及び結果の提示にとどまった。そこで、今後は調査対象を拡大し、各大学の実態や保健体育科教員養成の成果及び課題を調査することで、より具体的、かつ一般的な知識の発達を促す手立てや保健体育科教員養成の改善の視点及び方策を考究していく必要があるだろう。また、本論文で分析の対象とした「体育の授業における知識」について、その良し悪しや質などを評価する基準が明確でないため、対象学生の知識の良し悪しや質については言及することができなかった。そのため、今後は知識研究を蓄積し、知識の良し悪しや質を評価できるような基準の検討が必要であろう。

引用・参考文献

- Amade-Escot (2000) The Contribution of Two Research Programs on Teaching Content: "Pedagogical Content Knowledge" and "Didactics of Physical Education". *Journal of Teaching in Physical Education*, 20(1): 78-101.
- 秋田喜代美(1993)教師の知識と思考に関する研究動向. 東京大学教育学部紀要, 32:221-232.
- 新井知生(2015)「教科内容学」研究の成果と課題－教員養成カリキュラムにおける教科専門の授業の在り方を中心に－. 島根大学教育学部紀要(教育科学), 49:27-36.
- 朝倉雅史(2016)体育教師の学びと成長－信念と経験の相互影響関係に関する実証研究－. 学文社.
- Carter, K. (1990) Teachers' Knowledge and Learning to Teach. In: W. R., Haberman, M., and Sikula J. (Eds.) *Handbook of Research on Teacher Education*. Macmillan: pp.291-310.
- 中央教育審議会(2006)今後の教員養成・免許制度の在り方について(答申). https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1337016.htm, (参照日 2020年12月1日)
- 中央教育審議会(2012)教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について(答申).
- 中央教育審議会(2015)これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について－学び合い, 高め合う教員養成コミュニティの構築に向けて－(答申).
- Clarke, D. and Hollingsworth, H. (2002) Elaborating a Model of Teacher Professional Growth. *Teaching and Teacher Education*, 18: 947-962.
- Davis, E. A. (2006) Characterizing Productive Reflection among Preservice Elementary Teachers: Seeing what matters. *Teaching and Teacher Education*, 22(3): 281-301.
- デューイ, J.: 市村尚久訳(2004)経験と教育. 講談社学術文庫. <Dewey, J. (1938) *Experience and Education*. The Macmillan Company. >
- Elbaz, F. (1983) *Teacher Thinking: A Study of Practical Knowledge*. Routledge.
- 深見英一郎(2015)教師行動論－効果的な教師行動を支える教授技術－. 岡出美則・友添秀則・松田恵示・近藤智靖編, 新版 体育科教育学の現在. 創文企画: pp.123-137.
- 福ヶ迫善彦・鄭ジュ赫・米村耕平・細越淳二・高橋健夫(2005)小学校体育授業における教師のマネジメント方略に関する検討－特に, ボール運動単元の分析から－. *スポーツ教育学研究*, 25(1): 27-42.
- 藤枝静正(1989)師範学校における「教育実習」経営の特質－2－実習時間配当及び実習実施方式を中心に. 埼玉大学紀要(教育学部)教育科学, 38(1-1): 1-12.
- Griffin, L., Dodds, P. and Rovegno, I. (1996) Pedagogical Content Knowledge for Teachers: Integrate everything you know to help student learn. *Journal of Physical Education*

- Recreation & Dance, 67(9): 58-61.
- Grossman, P. L. (1990) *The Making of a Teacher: Teacher knowledge and teacher education*. Teachers College.
- Guerriero, S. (2017) *Pedagogical Knowledge and the Changing Nature of the Teaching Profession*. OECD Publishing.
- 浜上洋平 (2012) 体育教師志望学生の教材内容についての知識が相互作用行動に及ぼす影響—3名の教育実習生を対象とした事例的検討—. 東亜大学紀要, 16 : 13-26.
- 濱本想子・岩田昌太郎・齊藤一彦 (2020) 体育科教育実習生の「授業における知識」の特徴と変容に関する事例研究—協議会でのリフレクションに表出する「授業における知識」に着目して—. 体育学研究, 65 : 53-71.
- Hargreaves, A., and Goodson, I. (1996) *Teachers' Professional Lives: Aspirations and Actualities*. In: Goodson, F, and Hargreaves, A. (Eds.) *Teachers' Professional Lives*. Falmer Press: pp.1-27.
- 八田幸恵 (2009) リー・ショーマンの PCK 概念に関する一考察—「教育学的推論と活動モデル」に依拠した改革プロジェクトの展開を通して—. 教師教育研究, 2 : 341-354.
- 八田幸恵 (2010) リー・ショーマンにおける教師の知識と学習過程に関する理論の展開. 日本教育方法学会紀要 教育方法学研究, 35 : 71-81.
- 早川由紀・大友智 (2010) 体育指導における初心期の教師の意思決定と知識の関係に関する研究—大学院生の体育指導を対象として—. 群馬大学教育実践研究, 27 : 107-117.
- Hiebert, J., Gallimore, R. and Stigler, J. W. (2002) *A Knowledge Base for the Teaching Profession: What would it look like and how can we get one?*. *Educational Researcher*, 31(5): 3-15.
- 姫野完治 (2013) 学び続ける教師の養成—成長観の変容とライフヒストリー—. 大阪大学出版会.
- 姫野完治・渡部淑子 (2006) 省察を基盤とした教育実習事後指導プログラムの開発. 秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要, 28 : 165-176.
- 日野克博・谷本雄一 (2009) 大学の模擬授業並びに教育実習における省察の構造. 愛媛大学教育学部保健体育紀要, 6 : 41-47.
- 石井英真 (2013) 教師の専門職像をどう構想するか—技術的熟達者と省察的实践家の二項対立図式を超えて—. 教育方法の探究, 16 : 9-16.
- 岩田昌太郎・久保研二・嘉数健悟・竹内俊介・二宮亜紀子 (2010) 教員養成における体育科目の模擬授業の方法論に関する検討—「リフレクション」を促すためのシート開発—. 広島大学大学院教育学研究科紀要第二部, 59 : 329-336.
- 岩田昌太郎・齊藤一彦・前田一篤・山木彩加・手島祥平・中山泉 (2014) 修士課程段階におけるアクションリサーチ型実習の効果に関する事例的検討—保健体育科実習生の授

- 業についての知識と教授方法の変容に着目して－. 学校教育実践学研究, 20: 141-151.
- 岩田靖 (1997) 体育科の教材づくり論. 竹田清彦ら編, 体育科教育学の探求. 大修館書店: pp.224-253.
- 岩田靖 (2010) 体育の教材・教具論. 高橋健夫ら編, 新版 体育科教育学入門. 大修館書店: p.55.
- 柏崎秀子 (2009) 省察できる教師を目指したメタ認知能力の育成の試み－模擬授業の設計と主体的な学びの過程の省察－. 実践女子大学文学部紀要, 51: 36-46.
- 川口諒・中川麻衣子・前田一篤・齊藤一彦 (2017) 教育実習の経験の有無が「リフレクション」に及ぼす影響に関する事例研究－教育実習の協議会における発言に着目して－. 広島大学大学院教育学研究科紀要第2部, 66: 203-212.
- 木村優 (2015) ドナルド・ショーン. 上條晴夫編, 教師教育－いま, 考えるべき教師の成長とは－. さくら社: pp.188-193.
- 岸本肇 (1995) マイクロティーチングによる体育授業の体験学習の効果に関する研究. 神戸大学発達科学部研究紀要, 2 (2): 195-202.
- 岸本肇・山口孝治 (1992) 現職教師と教育実習生の比較からみた体育の教授技術の巧拙に関する研究. 体育科教育学研究, 9: 23-32.
- 教育職員養成審議会 (1987) 教員の資質能力の向上方策等について (答申). 文部科学省.
- 教育職員養成審議会 (1997) 新たな時代に向けた教員養成の改善方策について (第1次答申). 文部科学省.
- 児玉佳一 (2016) 授業における教師の知識と思考に関する研究動向－1990年代から現在までに焦点をあてて－. 東京大学大学院教育学研究科紀要, 55: 357-365.
- 小松崎敏 (2010) 模擬授業の意義と効果的な進め方. 高橋健夫・岡出美則・友添秀則・岩田靖編, 新版 体育科教育学入門. 大修館書店: pp.263-271.
- Kolb, D. A. (1984) *Experiential Learning: Experience as the Source of Learning and Development*. Prentice Hall.
- コルトハーヘン, F. 編著: 武田信子監訳 (2010) 教師教育学－理論と実践をつなぐリアリステック・アプローチ. 学文社. <Korthagen, F. (2001) *Linking Practice and Theory: The Pedagogy of Realistic Teacher Education*. Lawrence Erlbaum Associates. >
- 久保研二・木原成一郎・大後戸一樹 (2008) 小学校体育授業における「省察」の変容についての一考察. 体育学研究, 53 (1): 159-171.
- 久富善之 (2008) 教師の専門性とアイデンティティ－教育改革時代の国際比較調査と国際シンポジウムから－. 勁草書房.
- 黒崎東洋郎 (2001) 教育実習の目的と意義. 有吉英樹・長澤憲保編, 教育実習の新たな展開. ミネルヴァ書房: pp.30-44.

- Leinhardt, G. and Smith, D. (1985) Expertise in Mathematics Instruction: Subject matter knowledge. *Journal of Educational Psychology*, 77(3): 247-241.
- Livingston, C. and Borko, H. (1989) Expert-Novice Difference in Teaching: A cognitive analysis and implications for teacher education. *Journal of Teacher Education*, 40(4): 36-42.
- Loughran, J. J. (2002) Effective Reflective Practice: In search of meeting in learning about teaching. *Journal of Teacher Education*, 53(1): 33-43.
- 松本奈緒 (2015) 複数回の指導経験から反省的実践力を保障する体育教師養成カリキュラムの検討ーマイクロティーチングと模擬授業の実施・省察を通してー. 秋田大学教育文化学部研究紀要 教育科学部門, 70 : 33-43.
- 丸山真司 (2015) 体育カリキュラムの社会的構成をめぐる諸相ー開発主体の問題に着目してー. 岡出美則・友添秀則・松田恵示・近藤智靖編, 新版 体育科教育学の現在, 創文企画 : pp.27-40.
- McCaughtry, N. (2004) The Emotional Dimensions of a Teacher's Pedagogical Content Knowledge: Influences on Content, Curriculum, and Pedagogy. *Journal of Teaching in Physical Education*, 23(1): 30-47.
- メリアム, S. B. : 掘薫夫・久保真人・成島美弥訳 (2004) 質的調査法入門ー教育における調査法とケース・スタディー. ミネルヴァ書房.
- 森田真樹 (2016) 教員のキャリアシステム構築と大学の役割の問い直しー私立大学開放性教員養成の立場からみた課題ー. 日本教師教育学会年報, 25 : 16-25.
- 村井潤 (2015) 小学校教育実習の授業協議会における実習生の発言内容に関する事例研究. *体育学研究*, 6 : 249-265.
- 仲田康一 (2018) 「スタンダード化」時代における教育統制レジームーテンプレートによる統治・データによる統治ー. 日本教育行政学会年報, 44 : 9-26.
- 中原淳 (2013) 経験学習の理論的系譜と研究動向. *日本労働研究雑誌*, 10月号(639) : p.4-14.
- 日本教育大学協会 (2004) 教員養成の「モデル・コア・カリキュラム」の検討ー「教員養成コア科目群」を基軸にしたカリキュラム作りの提案ー. 日本教育大学協会「モデル・コア・カリキュラム」研究プロジェクト : p.10.
- Tsangaridou, N. and O'Sullivan, M. (1994) Using Pedagogical Reflective Strategies to Enhance Reflection among Preservice Physical Teacher Education Teachers. *Journal of Teaching in Physical Education*, 14(1): 13-33.
- 越智拓也・磯崎哲夫 (2016) 理科教員養成における教育実習生の教師知識の発達に関する質的研究. *学習システム促進研究センター「学習システム研究」*, 3 : 1-12.
- 越智拓也 (2018) 理科教員養成における教育実習の意義に関する研究ー理論と実践の統合の視点からー. 広島大学大学院教育学研究科紀要第二部, 67 : 19-27.

- 大谷尚 (2017) 質的研究とは何か. 薬学雑誌, 137 (6) : 653-658.
- Rodgers, C. (2002) Defining Reflection: Another Look at Jhon Dewey and Reflective thinking. Teachers College Record, 104(4):842-866.
- Rovegno, I. (2003) Teachers' Knowledge Construction. In Silverman S. and Ennis C. (Eds.), (2nd ed), Student Learning in Physical Education: Applying research to enhance instruction. Human Kinetics: pp. 295-310.
- Rowland, T., Turner, F., Thwaites, A. and Huckstep, P. (2009) Developing Primary Mathematics teaching. SAGE Publications.
- 坂本篤史・秋田喜代美 (2012) 教師. 金井壽宏・楠見孝編, 実践知—エキスパートの知性—. 有斐閣 : pp.174 -193.
- 坂本篤史 (2013) 協同的な省察場面を通じた教師の学習過程—小学校における授業研究事後協議会の検討—. 風間書房 : pp.11-14.
- 櫻井直輝・梅澤希恵・葛西耕介・津田昌宏・福嶋尚子 (2013) カリキュラム形成に関わる教職の専門性・専門職性の研究. 平成 24 年度学校教育高度化センター学内公募プロジェクト報告書 : 167-195.
- 佐竹靖・小柳和喜雄・森本弘一・赤沢早人・市橋由彬・山本浩大・竹村景生 (2019) リフレクションを組み込んだ教育実習プログラムの開発—教育実習生の授業に関する知識変容に与えるリフレクションの効果に着目して—. 次世代教員養成センター研究紀要, 5 : 197-205.
- 佐藤学 (1989) 教室からの改革—日米の現場から—. 国土社.
- 佐藤学・岩川直樹・秋田喜代美 (1991) 教師の実践的思考様式に関する研究 (1) —熟練教師と初任教師のモニタリングの比較を中心に—. 東京大学教育学部研究紀要, 30 : 177-198.
- 佐藤学 (1996) 教育方法学. 岩波書店 : pp.187-197.
- 佐藤学 (1999) 第 6 章 カリキュラム研究と教師研究. 安彦忠彦編, 新版 カリキュラム研究入門. 勁草書房, pp.157-169.
- 佐藤学・秋田喜代美・志水宏吉・小玉重夫・北村友人編 (2016) 学びの専門家としての教師. 岩波書店.
- 佐藤学 (2015) 専門家として教師を育てる—教師教育改革のグランドデザイナー—. 岩波書店.
- 佐藤学 (2017) 教職の専門職性と専門性. 日本教師教育学会編, 教師教育研究ハンドブック. 学文社 : pp.6-9.
- ショーン, D. : 佐藤学・秋田喜代美訳 (2001) 専門家の知恵—反省的实践家は行為しながら考える—. ゆみる出版. < Schön, D. (1983) Reflective Practitioner: How Professionals

Think in Action. Basic Books. >

Schwab, J. (1969) The Practical: A language for curriculum. *The School Review*, 78(1): 1-23.

清道亜都子・水野正朗・柴田好章（2013）生徒の主体的な学びを実現している教師の実践
知－ナラティブとエビデンスを統合した研究アプローチの提案－. *教育方法学研究*,
38 : 109-119.

柴田義松（2000）教育課程 カリキュラム入門. 有斐閣 : pp.117-118.

Shulman, L. S. (1986) Those Who Understand: Knowledge Growth in Teaching. *Educational
Researcher*, 15(2): 4-14.

Shulman, L. S. (1987) Knowledge and Teaching; Foundation of the New Reform. *Harvard
Educational Review*, 57(1): 1-22.

シーデントップ, D. : 高橋健夫ほか訳（2003）体育の教授技術. 大修館書店. <Siedentop,
D. (1983) *Developing Teaching Skills in Physical Education second education*. Mayfield
Publishing Company.>

Siedentop, D. and Tannehill, D. (2000) *Developing Teaching Skills in Physical Education (4th ed)*.
Mayfield Publishing Company.

Siedentop, D. (2002) Content Knowledge for Physical Education. *Journal of Teaching in Physical
Education*, 21: 368-437.

田中里佳（2019）教師の実践的知識の発達－変容的学習として分析する－. 学文社.

谷口和也・漆畑俊晴（2015）授業において形成される教師の実践的知識についての理論的
展望. *東北大学大学院教育学研究科研究年報*, 64（1） : 19-34.

Tinning, R. (2002) Engaging Siedentop Perspectives on Content Knowledge for Physical
Education. *Journal of teaching in Physical Education*, 21(4): 378-391.

高橋健夫・岡沢祥訓・中井隆司・芳本真（1991）体育授業における教師行動に関する研究
－教師行動と児童の授業評価との関係－. *体育学研究*, 36（3） : 193-208.

高岡敦史・原祐一・酒向治子・足立稔・加賀勝（2018）体育科・保健体育科における教科
内容構成の固有性. *研究集録*, 167 : 55-60.

Tsangaridou, N. (2006) Teachers' Knowledge. In: Kirk, D., Macdonald, D. and O'Sullivan, M.
(Eds.) *The Handbook of Physical Education*. SAGE Publications: pp.502-515.

山口孝治（2010）体育授業研究からみた教師の実践的知識と思考に関する研究の変遷と今
後の展望. *佛教大学教育学部学会紀要*, 9 : 61-72.

山崎敬人（2011）教師のライフステージに応じた理科の実践的指導力の形成に関する研究（課
題番号19500745）. 平成19年度～平成22年度科学研究費補助金（基盤研究C）研究成果
報告書. 研究代表者：山崎敬人.

山崎準二（2017）第5章 教職の専門家としての発達と力量形成. 日本教師教育学会編,

- 教師教育研究ハンドブック，学文社：pp.18-21.
- 山崎準二（2016）7 教師教育の多元化システムの構築．佐藤学・秋田喜代美・志水宏吉・小玉重夫・北村友人編，学びの専門家としての教師，岩波書店：pp.165-195.
- 吉崎静夫（1987）授業研究と教師教育（1）－教師の知識研究を媒介として－．教育方法学研究，13：11-17.
- 吉崎静夫（1989）授業研究と教師教育（2）－教師の意思決定研究からの示唆－．鳴門教育大学研究紀要 教育科学編，4：341-356.
- 吉崎静夫（1997）デザイナーとしての教師、アクターとしての教師．金子書房．
- 吉崎静夫（1998）一人立ちへの道筋．浅田匡・生田孝至・藤岡完治編，成長する教師－教師学への誘い－．金子書房：pp.162-211.
- 米村耕平（2010）組織的観察法を活用した模擬授業の振り返り．梅野圭史・海野勇三・木原成一郎・日野克博・米村耕平編著，教師として育つ－体育授業の実践的指導力を育むには－，明和出版：pp.63-70.
- 油布佐和子（2016）6 教師教育の高度化と専門職化－教職大学院をめぐって－．佐藤学・秋田喜代美・志水宏吉・小玉重夫・北村友人編，学びの専門家としての教師，岩波書店：pp.135-163.